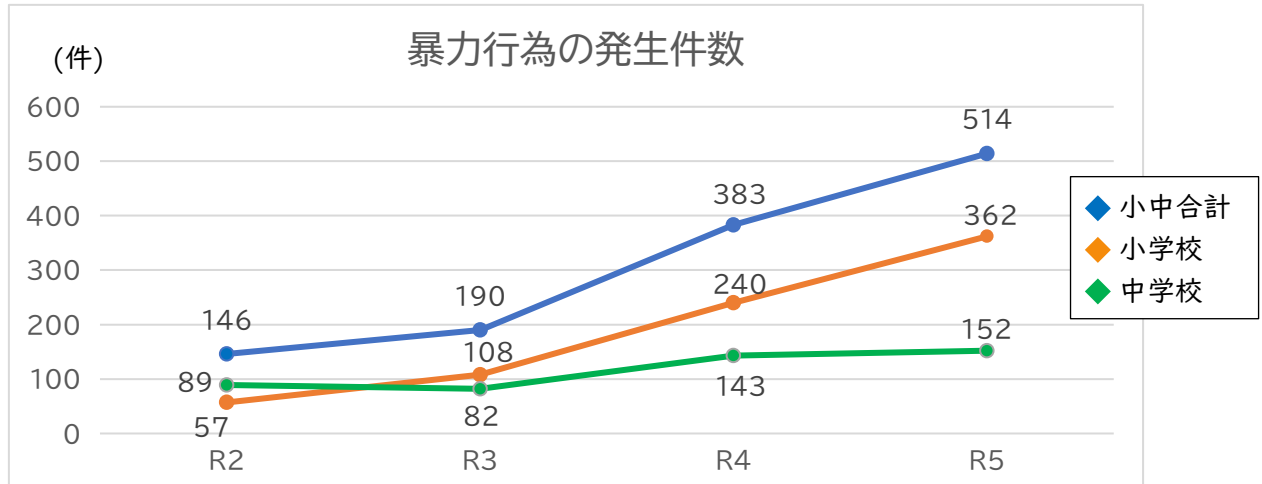


「令和5年度 生徒指導状況報告」の結果報告について

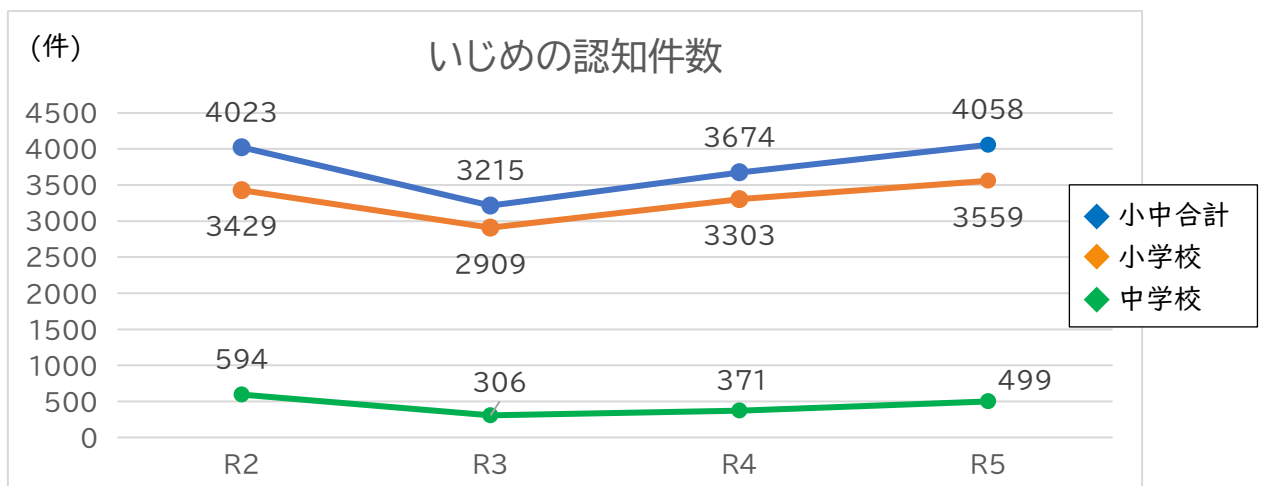
1 暴力行為の状況について

本調査における暴力行為とは、対教師暴力、生徒間暴力、対人暴力、器物損壊をいう。



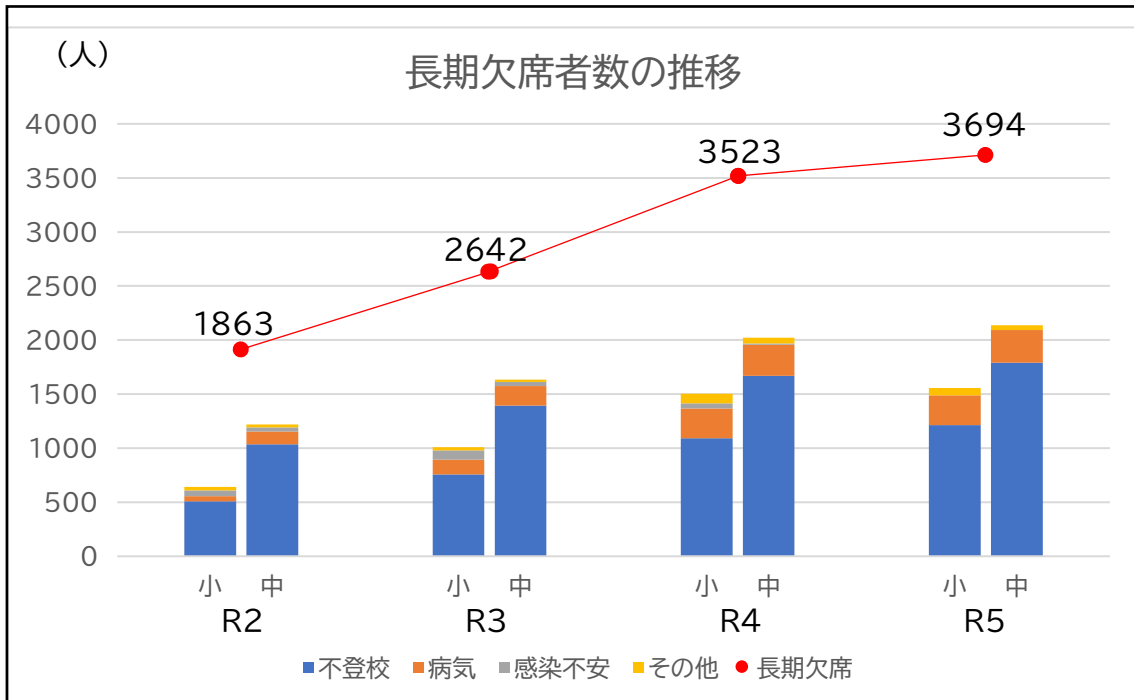
暴力行為の発生件数における小・中学校の内訳は小学校362件(+122件)【対教師暴力69件(-22件)、生徒間暴力267件(+146件)、対人暴力2件(+1件)、器物損壊24件(-3件)】、中学校152件(+9件)【対教師暴力16件(±0件)、生徒間暴力121件(+13件)、対人暴力3件(-1件)、器物損壊12件(-3件)】である。 ※()内は前年度との比較

2 いじめの状況について



- いじめ防止対策推進法についての理解が広がったことで、日常的に起こりうる児童生徒間の軽微なトラブルであっても積極的に認知するようになり認知件数は増加傾向である。ただ、令和5年度の「熊本市こころのアンケート」(無記名式)で「いじめられたことがある」と回答した児童生徒数は5096人だった。いじめの早期発見、早期対応につなげるためにも生徒指導主任・主事会等でいじめの認知・対応について、具体的な事例をもとに学ぶことのできる機会を設定する。

3 長期欠席児童生徒の状況について



	R2		R3		R4		R5	
	小	中	小	中	小	中	小	中
不登校	508	1034	757	1395	1092	1668	1213	1792
病気	49	121	136	179	274	287	275	301
感染不安	53	38	87	40	49	12		
その他	33	27	28	20	87	54	68	45
長期欠席	1863		2642		3523		3694	

○ 本市の小・中学校の不登校児童生徒数はいずれの校種においても増加している。市教育委員会では、スクールカウンセラー48人、スクールソーシャルワーカー21人(昨年度から5人増)、不登校対策サポーター21人(昨年度から9人増)を配置し、不登校の未然防止、早期発見及び関係機関につなぐ取り組む体制づくりに努めている。

また、フレンドリー(教育支援センター)を6カ所に設置し児童生徒の居場所づくりや大学生が不登校児童生徒の話し相手や遊び相手になるユア・フレンド事業も継続して実施している。フレンドリーオンラインも本格実施3年目となり、不登校児童生徒の心の居場所づくりと、学習機会の保障に努めている。

◎小中学校におけるユア・フレンド活用人数は326人で、前年度より42人増加しており、小・中学校別の内訳は、小学校148人(+23人)、中学校178人(+19人)である。

◎小中学校におけるフレンドリー活用人数は78人で、前年度より9人減少しており、小・中学校別の内訳は、小学校26人(+3人)、中学校52人(-12人)である。

※フレンドリーの見学者・体験者・通所者のべ利用人数は4332人(+1478)である。

◎小中学校におけるフレンドリーオンライン申込者は403人で、前年度より81人増加しており、小・中学校別の内訳は、小学校124人(+44人)、中学校279人(+37人)である。

※()内は前年度との比較